

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600538
法人名	久留米市農業協同組合
事業所名	JAくるめ ドゥ・ファミーユとりかい24
所在地	福岡県 久留米市梅満町911-5
自己評価作成日	平成24年 2月 20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成24年3月5日	評価結果確定日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方と一緒に夏祭りを開催したり避難訓練にも参加して頂きこの地区の地域住民のように過ごせています。
室内は黒を基調とした絨毯や懐かしみのある水屋などを利用し温もりのある空間にしているため、介護施設ではなく自宅にいるようにくつろいで過ごせます。
同じ敷地内で週2回朝市が開催されており、利用者と共に新鮮な野菜を購入しみんなで食事の準備をしている。また、買い物をする事で生産者や地域住民の方と知り合いになり、お互いに声を掛け合い顔なじみになり高齢になっても社会参加ができ、地域の方とのふれあいや接点が多いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成21年10月に開設された事業所の理念は、職員の意見を基に作られている。鳥飼校区にあるため「とり・か・い」と頭文字のつく独自の理念となっている。管理者の人柄もあり、職員間は仲が良く、意見を言いやすく、会話のはずむ職場となっている。そのため利用者も食後の団欒時には、身振り手振りでの昔話で賑わい、笑い声が響いている。玄関には洒落た洗面台があり、手洗いうがい(消毒薬入り)・1人ずつ使用の小タオルが準備されている。その小タオルは手作りで、来訪者への心温まるおもてなしと感染症予防にも一役かっている。併設の『遊さいさい』では、65歳以上で元気な方々のサークル活動が行われ、事業所へのボランティア活動や交流も深めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回の職員会議時に理念を書いた用紙を職員に渡し理念の共有・実践を行っている。理念に対する思い等の意見交換が出来る機会を設けている。	会議前には理念の唱和を行っている。とり かい24の理念は鳥飼校区であるため「と・り・か・い」と地域名の頭文字から始まり、開設当時の職員全員で作ったもので馴染みやすい理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のゴミ当番、清掃活動などを実施している。また、地域の行事にも積極的に参加したり、施設の行事（餅つき）では毎年近隣宅につきたての餅を配布し、交流を図っている。	地域からの要請により「子ども110番の家」に指定されており、「A E D」も玄関先に設置している。事業所前の朝市（週2回）では、野菜を買ったり、頂いたりと生産者・地域の方との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合で認知症利用者の理解や事業所の目的を話したりして理解をして頂いている。今後は、行方不明探索訓練に地域の方にも参加して頂く様に声かけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの内容や状況の報告を行っている。そこで頂いた推進委員の意見を職員会議で報告し、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に会議を開催し、会議録も整備している。火災通報訓練の実施報告では、「声で火事だと伝達するより大きな音のベルで知らせるのはいかがでしょうか」という意見がメンバーから出され、次回実施予定となっている。	メンバーの小学校PTA会長・自治会長・老人クラブ会長・提携医2名・民生委員・地区会長・介護保険市担当・地域包括支援センターと地域の方々の理解と協力はあるが、利用者や家族の出席が少ないため、できるだけ多く参加してもらえるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所でのケアサービスへの取り組み等への報告を行っている。また、日常の相談や分からない事等がある時も常に連絡等を取り合っている。	介護保険・福祉担当者・地域包括支援センターなどと良く交流できている。わからない時はその都度担当者へ尋ね、意見交換を行い、運営に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で、身体拘束マニュアルに基づいて研修を行い、理解を深め身体拘束をしないケアに努めている。職員が常時見守りを行っている為鍵をかけないケアを実践している。万が一施設外へ出て行くことがあった場合地域住民への協力要請を行い、事故等の未然防止に努めている。	身体拘束をしないケアは、職員研修会で理解を深め実践できている。玄関の鍵はかかっていないが開き戸は少し重いため、外へ出ようとする利用者の気配に職員が気づくことができ、一緒に外に出て散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で、虐待防止マニュアルに基づいて研修を行い、理解を深めている。 自宅でも施設内でも虐待が無いよう利用者に対する見守りや家族との情報交換を密に行っていて虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員で、権利擁護マニュアルに基づいて研修を行い、理解を深めている。 現在必要な利用者はいないが必要な利用者がある場合には対応をする体制が取れている。	権利擁護マニュアルを使って年に1回は職員全員で研修会を行い、必要な時には支援ができるように学習している。成年後見制度については、ホールにパンフレットを置き、職員も理解している。	日常生活自立支援事業については、職員の理解を深め、また、利用者や家族の理解を得やすくするためのパンフレットの準備も望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の歳には、十分に時間をかけて話を聞き不安や疑問点をわかりやすく説明し、納得していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の担当者を配置している。また、玄関の入口に苦情相談受付箱を設置している。利用者や家族とは、送迎時や連絡帳でやり取りを行い意見や要望を聞いている。ケア会議で報告し、改善するように努めている。	玄関ホールには懐かしい大きな赤いポストが意見箱として設置され、用紙と鉛筆も準備されている。送迎時や連絡帳で家族の意見や苦情などを聞き取り、意見の一つひとつをスタッフ会議で検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中で意見や提案などを聞く機会を設けている。また、個別に相談や意見がある時は、管理者に直接話せる場を設けている。そこから出た意見などを再度話し合うようにして事業運営に反映をしている。	月2回行われるスタッフ会議は、原則全員出席で（18時～19時半）行われており、全員が発言できる会議となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を設定したマイアクションシートによる活動を各自で行っており目標意識も高く向上心を持って働いている。各職員がどうすれば職場環境が良くなるのか自分自身で考え行動している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由での排除はしてなく、お年寄りが好きやこの職場で楽しく働きたいという気持ちを持っている人を採用している。職員全員で助けあい生き生きとした仕事ができる職場である事を目標にしている。	65歳が定年の職場となっているが、希望すれば延長して働くことができる。研修会への参加希望がある場合は学べる環境にある。マイアクションシート（自己目標）を通して自己実現の権利が保証されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員で、人権についてマニュアルに基づき研修を行い、理解を深めている。また、市の連絡協議会で行っている人権、啓発活動の研修にも参加している。	法人内でのコンプライアンス研修（法令順守・人権）受講者が会議などで研修内容の報告を行い、啓発に取り組んでいる。地域で行われる人権研修へも参加している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年次計画を作成し、可能な限り研修に参加をしている。研修を受けた職員はスタッフ会議で報告したりして話す機会を設け内容を共有している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス事業所協議会と小規模事業所協議会に加入している。その勉強会に参加をしたり職員同士でも交流をしてサービスの質の向上をさせている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用するにあたり、家族や利用者は分らない事や不安な事が多いため分かりやすい言葉で説明し何でも話せる雰囲気を作る。安心して利用できると思って頂けるよう心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、困った事がなどがあればいつでも相談にのり一緒に介護をしていく事を伝えている。安心をして頂いている。また、話しやすい雰囲気作りや接遇・傾聴を心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話を十分に聞き、一番必要なことを考え助言を行っている。その際、小規模の利用だけではなく他のサービスも視野に入れ幅広い範囲での説明、対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は、人生の先輩として尊敬をしている。年間行事などは、人生の先輩にいろいろと教わりながら行う事が多く一緒に心地よく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用時の様子を送迎の時や1人暮らしの方には定期的に家族に報告を行っている。家族には家庭での様子を聞きご利用者にとって最良の支援方法を考え一緒に支えていくようにしている。		
22	(11)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろんの事、お友達なども気軽に面会しに来れるようにしている。また、家族や友人が泊まれる体制も整えている。地域での行事にも出向くなどして支援をしている。	利用者の友人が面会に来たり、電話がかかってきたりしている。また、携帯電話で友人とよく話している方もいる。馴染みの美容室へ出かけるなど、今までの地域との繋がりを継続できるように支援している。	
23		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が楽しんで参加できるレクや外出を行ったり、会話をしながら食器拭きや洗濯物干しを手伝ってもらうなど、至るところで孤立防止支援に努めている。		
24		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても何かあればいつでも相談に乗ることを伝えている。時折、訪問をし日常生活を把握している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメント時にご本人の意向や希望を把握し、ご利用後もご本人の会話から意向を聞きだせるようにしている。困難な場合は、家族や職員と話をしながら本人にとって一番良い方法を検討している。	利用開始時には、訪問して家族と利用者の思いや希望の把握に努め、記録している。小規模の小人数の馴染みの関係を生かして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
26		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今までの暮らしなどを把握できるように努めている。利用後も会話の中から情報収集に努めている。また、その情報は必ず記録をしている。		
27		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人と会話をしながら一日の過ごし方や心身状態等の把握に努めている。自宅での様子なども家族に聞き取りをしている。利用時に動作の様子を観察することにより、有する力等の把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者との話し合いは必要に応じ行っており、職員会議時等で出た意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画書を作成している。	利用者・家族の意向を基に、月2回行う職員会議で利用者中心の意見を出し合っている。アセスメント・モニタリング、カンファレンスを職員全員で行い、介護計画書を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌には、日々の様子等を細かく記入している。特に必要な時には申し送り簿に記入し情報を共有している。スタッフ会議で介護計画の見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の要望に合わせ、通い・訪問・宿泊の他、病院への通院介助も行い多様な利用にも柔軟な支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域団体との交流を密にしている。利用者一人ひとりの暮らしを支えるために地域資源の把握に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者の方が受診の際には、施設での状態を伝えたり電話等にて指示を仰いだり連携を図っている。適切な医療を受けられるように通院等の支援を行っている。	今までのかかりつけ医を大切に、病状やバイタル経過などを文書でかかりつけ医へ報告したり、診察結果情報をもらったりしている。家族の都合がつかない時は受診介助も行っている。事業所の協力医もあり、状態によっては往診も受けている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に関しての事等は、常に相談等ができるようにしている。その時々で助言などをもらっている。また、必要に応じて利用者の家族に話をしてもらい受診などの促しをしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、ご家族に定期的に連絡を入れるようにしている。病院とも連携を図り退院後の生活支援についての話などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援については家族やご本人の思いを聞き取るようにしている。それに合わせて地域関係者と共にチームで支援できるように取り組みができているようにしている。	看取りの方針やマニュアルが母体の農協としてはあるが、事業所独自のものは無い。終末期のケアは今までに行ったことはなく、また、終末期ケアの希望者も無かった。	利用者が重度化した場合や終末期支援について、事業所としての方針や手順などについて検討されることを期待する。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A E D の研修を受けています。今後は、救命救急の研修を再度する予定。事故対応マニュアルに基づき研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として避難訓練を予定している。訓練には、地域の方も参加頂いている。利用者、スタッフとも避難の方法を身につけるように心掛けている。	深夜1時に夜間火災通報訓練を実施し、消防署、近隣の協力もあっている。火災・水害・地震・台風などのマニュアルが作成されている。非常時の備蓄については母体の農協で準備している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守り、個人を尊重している。施設全体でも接遇の研修を行い職員で声かけに不適切な事があれば注意をしあうようにしている。また、自己点検なども行っている。	人格の尊重・プライバシー確保のための自己点検・アンケート調査を行っている。恥ずかしいことは、さりげない言葉かけや対応に配慮し伝達ノート（聞こえないように）も利用している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がしたい事や思いを聞き取れるようにコミュニケーションを図っている。こちらからの考えを押し付けないよう常にご利用者に耳を傾け自己決定をして頂けるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日、どのように過ごしたいのかはご本人に決めてもらっている。アセスメントや日常会話により個人をよく知りご自分のペースで過ごし家での生活の延長と思って頂けるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクをしたい利用者にボランティアで美容部員の方に来てもらったり、ご本人の希望により美容室へ行って毛染めやパーマをかけてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体機能に合わせて調理・盛り付け・配膳・後片付けなどを一緒に行っている。食事は、職員も一緒に食べる事で会話をしながら楽しく食事が摂れるように心掛けている。	オープンキッチンで皆が見守る中で、各人が出来る調理、盛り付け、片付けなどを職員と共にしている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで「美味しい 美味しい」と言いながら食事をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取量や好き嫌いの状態などを把握し個別に食事の工夫をしている。利用時の食事量や水分摂取量は、記録をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声かけを行っている。きれいに磨けない方などは介助を行っている。食事の前には、口腔体操を行い誤嚥防止に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状態を把握している。定期的な声かけや誘導も行っている。介助が必要な方でもすべて職員がするのではなく本人ができる事は行ってもらるようにしている。	排泄の訴えがない方へは、動きで察知してさりげなく声かけをし、トイレ誘導を行っている。排泄の自立支援に向けて家族とも話し合い、紙パンツやパットなどの利用も提案している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修会などで知識向上に努めている。家族にも情報提供等を行っている。施設内でも水分の摂取量を記録し少ない方には促すようにしている。適度な運動をしたり食物繊維の多い食事を心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者のご家族と話をし入浴日を決めている。入浴をしない日でも入浴されたりと臨機応変に対応をしている。また、基本は一人一人入浴をされるが仲の良い利用者さん同士で入られたり入浴を楽しまれている。	着脱しやすいようにロッカーに手すり付き、また、温泉のような洗面台椅子がある。庭の見える岩風呂に、利用者同士で入ったり、好きなシャンプーを使ったりして入浴を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間などではなくご本人の生活習慣に合わせて好きな時間に休んでもらっている。ベッドや座敷で横になりたい方は布団も用意していつでも休めるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の明細を頂き副作用、用法、用量を確認している。利用者体調に変化がある場合はや必要時には主治医へ連絡をしている。服薬の確認を行い利用者ごとに個別の対応を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント時に聞き取った事やご本人の普段の様子を見ながらお手伝いをお願いをしている。また、コーヒー等を飲んだり趣味を楽しめるスペースを作り気分転換を図るようにしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出支援を行なっている。気候が良い日は、草むしりや外で花見をしながらバーベキューなどを行っている。	外に出ようとする方と一緒に散歩し、気持ちよく過ごせるように支援している。外出希望も利用者へ尋ね、ケーキを食べに行ったり、イルミネーションドライブしたりしている。また、お花見などで季節を感じられるように外出支援を積極的に行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能の方には、外出時などに自分で決め、自分でお金を払い買い物をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が自由に電話をかけることができるように事務所に電話を設置している。ご利用者の家族や友人などからかかってくることもある。現在、手紙でのやりとりはないが希望があれば対応をしていく。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金融機関の施設を改装しているため外から見るとその名残があるが施設内は、古民家風にして食器棚も昔なつかしい物を使っている。居間、玄関など季節の花を飾るなど季節が分る工夫をしている。家と変わらない空間作りに心がけている。	玄関ホールには、春を告げる雛飾りの『さげもん』が飾られ、花の香りが漂っている。オープンキッチンであるため、調理の準備・配食の様子や美味しそうな匂いを利用者は感じとることができる造りになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や玄関ロビーがありその方の好みで一人になれるようになっている。また、ソファを多く置き気の合った方とリラックスしてお話ができるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものがあれば施設内でも使用をして頂いている。ご利用者と話をしながら心地よく過ごせるようにしている。	泊まりの部屋は利用者の希望もあり、孤立せず安心して過ごせる相部屋となっている。自宅からカレンダー・目覚まし時計・化粧品シャンプー・滑り止めシートなどを持ち込み、落ちついて過ごせる部屋となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人一人の状態を把握してご本人ができる事は声をかけたり見守りを行っている。		